



平成 30 年 1 月 10 日定例会講演要旨

子供時代の手稲の思い出を語る

手稲区在住 中山 幹男様

昭和 32 年 12 月 20 日札幌鉄道病院で国鉄マンの長男として生まれ、南 3 条、桑園と転居し、昭和 36 年手稲区富丘 3 条 4 丁目に居を構えまして昭和 50 年から 6 年ほど勤務の関係で釧路にいましたが、還暦を迎えた現在までおよそ 50 年手稲に暮らしてきました。



この度、手稲郷土史研究会の菅原先生からおさそいを頂き、忘れかけていた子供時分の様々な思い出を固まっていた心の引き出しから引き出せたことは、ふだん生活しては味わえない感覚でした。この機会を頂いたことに感謝いたします。

私の語りをお聞きになられた方々が、その時代の風景やにおいなど思いうかべていただけたら嬉しく思います。

子供が一番子供らしいのは、小学生時代ではないかと思えます。東京オリンピックが開催された昭和 39 年に手稲中央小学校へ入学し昭和 45 年に卒業しています。

正に高度経済成長時代の真っ只中ですが、当時の富丘は一面「田んぼ」が広がり、カエルが鳴き響く自然豊かな所でした。国道から高台通りまでは「田んぼ」で、高台通りは雑木林で遮られ、行き止まりでした。

二階の窓からは札幌テレビ塔の電光掲示板の時計が見えていました、琴似方面の高層ビルなどが無く遠くまで見えたのです。夏に行われた花火大会も見えました。手稲駅は丸太作りで、木造の手稲駅舎はツバメが巣を作り飛び交っていて、それを網で追いかけては怒られていました。手稲駅のホームは三楽オーシャンの赤いネオンに照らされ、駅前はお店が並び華やかでした。

小学校の運動会は運動会用品がセットで売られていて、その中の運動足袋で走りました。運動靴など買ってもらえず、靴も売っていなかった。

学校の給食は脱脂粉乳の入ったビン牛乳で、紙で作られた蓋を大量に集めては日付の大きさを競ったり、「パッチ」遊びをしました。「ビー玉」遊びもましたが色ビー玉はお医者さんの子供くらいしか持っていませんし、買えなかったのです。

学校が終わると鉄道の線路に行き石炭を拾う友達の手伝いをして大量に集めました。貧しい家の友達に蒸気機関車からごぼれ落ちた石炭を集めて燃料にしていたのです。差別とかいじめなどもなく貧しい子供とも一緒になって遊んでいました。

温泉通りの先にあった「光風館・ヘルスセンター・北家」の裏手の池に行ってはサンショウウオの卵を取ってきて手作りの池で、ほとんどの卵をフカさせて川に放流しました、そのままにしておく共食いしてしまうので可愛そうだったのです。タマゴからかえった黒い色

のサンショウウオの中に、腹部の黄色い希少動物「キタサンショウウオ」もフ化させました。

また蝉の幼虫を佃煮でも作るのかと言われるくらい採って来てはそれをカーテンに引っ掛けておくと、黒ずんできて蝉が羽化するのを見ていました。手稲山旧道を登り栗の実を採ってきて茹でて食べました。(今より美味しかった)

星置の滝から乙女の滝あたりまで「砂金探し」にも行きました(光っていたのは黄銅鉱で金ではなかった)、野球のバットも小刀で削り、物がなかったので自分で作って遊ぶ毎日で、とにかく外でよく遊んでいました。今日は小学校時代の富丘と手稲の様子を子供目線でお話しました。皆さんも思い当たることもあったと思います、懐かしいお話が出来たと思っています。一時間程の時間でしたがありがとうございました。

この後、菅原研修部長のコメントや乙黒会員、村元会員の質問で当時の富丘の桜並木の様子や手稲駅前の賑わい等が再現されていました。

還暦を迎えられて尚現職でお仕事を続けている中、およそ半世紀前の手稲の様子を子供目線でお話して頂きました。大変お疲れ様でした。(文責：佐々木)

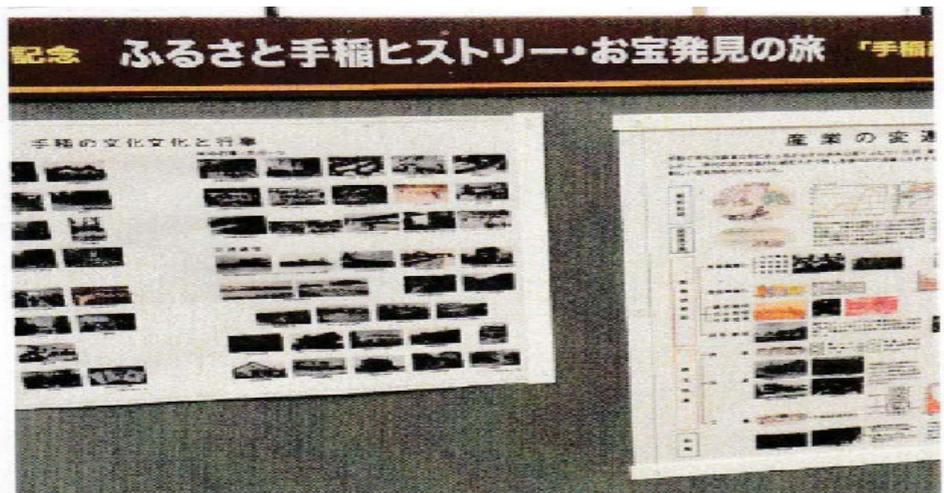
「ふるさと手稲ヒストリー

・お宝発見の旅」を振り返って

JR手稲駅自由通路「アイクル」29年11月1日～12日展示

手稲町が札幌市と合併して50年の節目を迎える年に何か記念となる事業を……。

合併前、手稲町は開基100年記念事業の目玉として手稲記念館の建設を構想していました。昭和42年時の合併条件でもあった手稲記念館の建設は、2年後の昭和44年に札幌市によって実現することになります。建設場所も当時は手稲町内(西野)であったが、その後の区制により西区となり、平成元年の分区(手稲区)時も西区にあって手稲記念館という、何とも判りづらい行政区割りにより、手稲区民からは遠い存在の手稲記念館となっています。それに加え、現在の手稲区民はその存在すら知らない人が多くなっているという調査もあります。手稲区のアイデンティティともいべき手稲の郷土史をもっと身近に、子供たちにも「ふるさと手稲」をもっと知って欲しいという声を背景に、今回の事業が実



施され、多くの皆様からご支援ご協力をいただき初期の目的を達成することができました。

◎ 「手稲記念館」 収蔵品移動展

今回の事業では、手稲区民と疎遠になっている「手稲記念館」の収蔵品を手稲区内に移動して展示するという初めての試みとなりました。手稲記念館の収蔵品は札幌市の文化財として厳重に管理されており、収蔵品の移動・展示は専門性を有するものでたいへん神経を使うものとなりました。また山の博物館からは「手稲石」をお借りし展示することができました。ショーウィンドーに青く輝く手稲石を覗き込むご婦人の姿が印象的でした。



手稲郷土史研究会は、2005年（平成17年）9月に、「ふるさと手稲」の郷土史への関心の高まりの中、手稲区連合町内会連絡協議会を中心に「手稲郷土資料館」の設置が提唱され、その活動組織として手稲郷土史研究会が発足しました。その目的は、「ふるさと手稲と



手稲郷土資料館」づくりに寄与することに集約されます。

◎ 温故知新はクールジャパン

昨今は、先行きの見通しが難しい時代と言われます。そんな時、私たちは”古きを訪ね新しきを知る”の諺にあるように、歴史から学ぶことを教えられました。日本を訪れる外国人が飛躍的に増加しています。情報通信技術の発達さらなるクールジャパンのファンを日本に引き付けています。初詣に北海道神宮に行きましたが、おみくじは中国語、台湾語、韓国語、英語などの種類が用意されていました。（神社の対応の早さに驚き！）そうです。いま日本の歴史はクールジャパンなのです。歴女なる言葉があるように日本女子も歴史が大好きです。

日本各地で、遠方からのお客様をお迎えするための施設や設備など受け入れ体制の整備を進めています。手稲区は、手稲山に代表されるようにオリンピック開催地としての知名度、縄文遺跡、札幌運河（新川）、前田農場、手稲鉱山等々、クールジャパン的な要素がたくさんあります。しかし、これらがバラバラに情報発信しては魅力半減です。手稲物語として体系的に整理して、観光となるようにスパイスをきかせた味付けが必要です。日本は少子化ですが、アジア全域では今

次回定例会の予定

「稲積農場はなぜ地名に残らなかったのか」
会員 齊藤 隆夫氏
「平成29年度を振り返って」…事務局
30年3月14日
区民センター視聴覚室

後ますます人口が増えると予想されています。(文:渡部孝次)